

## 〇ー11番 要約

(平成26年10月現在)

### 1 被害者

平成10年8月生。接種時中学校1年生（13歳1ヶ月～13歳7か月）。現在16才。

### 2 ワクチン接種前の健康状況等

健康（ワクチン接種前の通学は一般的な病欠以外なし）。弓道部に所属。アレルギーなし。

### 3 ワクチンの接種状況

サーバリックス 3回（H23.9.3、H23..10.28、H24.3.27）

### 4 経過概要

平成23年9月3日 近医にて1回目のワクチン接種（接種部位左腕）  
接種部位に強い痛み、腫れ、頭痛、微熱、腹痛

10月28日 同医院にて2回目のワクチン接種（接種部位左腕）  
接種部位に強い痛み、腕の腫れ、頭痛、微熱、腹痛、強い体のだるさ。

平成24年3月27日 同じ医院にて3回目のワクチン接種（痛みのため接種部位は右腕）  
腕の痛み、腫れ、頭痛、微熱、腕が上がらない、強い体のだるさ

4月 手足の震えや痺れが発生。生理不順、リンパの腫れ。  
近医を受診するも原因不明。足のもつれ。右半身の痺れ。関節の痛み。  
味覚がなくなる。計算障害など症状が重くなる。

平成25年6月 A病院で診察。MRI検査。各科で診察するも原因不明。

12月 B医療センターでMRI検査及び神経の検査も異常なしと診断。

平成26年1月 C大学附属病院で診察を受ける。ワクチンの副作用の疑いありと診断。

2月 C大学附属病院に検査入院。ヒステリーや自立神経の問題と診断。  
てんかんの薬・漢方薬を処方される。薬が合わず、あまり服用せず。

3月 D病院、E病院診察、結果、「繊維筋痛症」と診断。

3月 全身の不随運動におそわれ、A病院を受診する。F大学病院に紹介。

4月 F大学病院神経内科を受診。子宮頸がんワクチンとの因果関係ありと診断。メチコバールの処方を受け、徐々に症状回復。

8月 身体状態がかなり改善され、通常生活を送れるほどに回復。但し、易疲労、微熱が出やすい、等の症状は残存。

9月・10月 手のしびれ、微熱がぶりかえし。通学は継続。

### 5 現在の状況・症状

メチコバールの処方により症状が改善。日常生活を送れるようになったが、症状のぶり返しあり。

### 6 受診医療機関の数・診療科

11医療機関（神経外科、小児脳神経外科、神経内科、整形外科、内科、麻酔科）

### 7 救済制度の申請

申請していない。（申請できないと言われたため）

## 〇ー11番

(平成26年10月現在)

### 1 はじめに

私は平成10年8月生まれで、中学1年生の9月に初めて子宮頸がんワクチンを打ちました。

このワクチンを打つ前は、私は小学校でも中学校でも、学校を休むことはほとんどなく、中学1年生の春からは弓道部に入部して、平日も休日も弓道の練習を続けていました。弓道では初めて出場した県大会でも良い成績をおさめ、当時は顧問の先生から私の頑張りを随分認めてもらっていました。

その他にも、ドラムやピアノ、習字などの習い事をしており、中学1年生のときには、学校行事であった合唱コンクールでピアノの演奏と指揮をしました。

このように私は積極的にいろいろな活動をしていたのですが、一番好きなことは演劇でした。市内の劇団に入団して、練習に参加しましたし、何度か東京までオーディションを受けに行ったこともありました。

私は、13才でまだ将来のことをはっきりと決めていたわけではありませんでしたが、健康な身体さえあれば、がんばっていろいろなことにチャレンジして、何にだってなれるんだと思っていました。

### 2 ワクチンを受けることになった理由

中学1年生(平成23年)の秋に、学校で子宮頸がんワクチンに関する手紙を配られました。学校では、子宮頸がんがどんな病気かということや、このワクチンを何故打つ必要があるのか、という説明はありませんでした。

けれども、私も周りの女子の友達もみんな、学校で配るワクチンの手紙だから、全員が受けなければならないんだ、と思っていました。

### 3 ワクチンを打たれたときの状態

#### (1) 1回目

平成23年9月3日、私はお母さんに付き添われて、近所のかかりつけの医院で1回目の注射を受けました。

注射を打つ前に、お医者さんや看護婦さんからはこのワクチンがどんなワクチンかという説明は何もなく、ただ注射を打たれただけでした。

私は、これだけは声を大にして伝えたいのですが、注射を打たれることも、点滴を打たれることも、決して好きではありませんが、全く怖くないし、恐怖感もないです。今までも、小さい頃からも、予防接種や注射を打たれたことは何度もありますが、その後で体調がおかしくなったおことは一度もありません。

けれども、この子宮頸がんワクチンを打った後は、今までに感じたことのない、腕に強い電気が走るような痛みが起きたことをはっきりと覚えています。

そして、ワクチンを打たれた後はすぐに気分が悪くなり、吐き気と頭痛がつらくて、家に帰ってからもずっと横になって休まないといわれませんでした。

1回目の注射の後、少なくとも1週間は打った腕が痛み、腫れが続きました。また、頭痛や微熱、腹痛が続きました。

そのうち、徐々にこれらの症状は治まったのですが、それでも手足がだるくて疲れやすく、朝に起きるのがつらくなりました。なんとか、学校に行っても授業を受けるのがしんどくて、先生の言葉に集中できませんでした。

(2) 2回目

2回目のワクチンは平成23年10月28日に打ちました。私は1回目のワクチンの後があまりにも辛かったので、お母さんにもうこのワクチンは打ちたくない、と言いました。けれども、お母さんは私に、このワクチンは3回打たないと効果が出ないし、今やめてしまったら最初にしんどい思いをしたことが無駄になってしまう、と言いました。私は、我慢しないと仕方がないと思って、諦めて2回目のワクチンを打ってもらいました。

2回目の後もやはり、1回目と同じように、電気が走るような強い痛みがあり、ワクチンを打った後はすぐに気分が悪くなり、吐き気や頭痛ができて、家に帰るとすぐに横になって休みました。

そして、注射を打った腕の痛みや腫れが続き、頭痛、微熱、腹痛が続き、1回目よりも強いからだのだるさを感じました。この腕の痛みや腫れは1、2週間程度続き、徐々に治まりました。

しかし、手足や身体のだるさやしびれが無くなることはなく、しんどさをずっと感じるようになりました。

(3) 3回目

3回目のワクチンは平成24年3月27日に受けました。お母さんは、4月までにワクチンを受けないと有料になってしまうと言い、私もこれまで2回もしんどい思いを我慢したのだから、あと1回なんとか我慢しようと頑張って受けたのです。

3回目のワクチンの後の症状はこれまで以上にひどくなりました。

ワクチンを打った後、同じ強い痛み、吐き気、頭痛がして、腕が腫れ、今度は腕があらなくなってしまうました。この状態は約1ヶ月ほど続きました。

そして、腕が上がるようになってからも、身体の強いだるさが消えることはなく、朝、学校に行くのもつらく、学校に行っても授業に集中できませんでした。大好きだった弓道部の練習も参加できなくなりました。学校から帰るととにかく身体を横にしないと行かれず、食事のとき以外はずっと部屋でベッドに横になっていました。

私は、ワクチンを打った後で自分の身体がこんな風にしんどくなってしまったのは、ワクチンが原因ではないか、と思う気持ちもありました。けれども、ワクチンを打ったらこんなに身体がおかしくなる、という話しは誰からも聞いたことはなかったので、私の方がおかしいのかと考えていました。

こんな状態だったので、学校の成績も急に下がり、弓道部の練習に参加できず、弓道の顧問の先生からは、私がやる気をなくしていると思われ、叱られました。

また、お父さんから、ベッドでだらだら生活しているから成績がさがったのではないかと、もっとやる気をださないと、言われたりして、身体のだるさを分かってもらえませんでした。とてもつらかったです。

3回目のワクチンの後に感じた身体の異常は、平成24年4月から平成25年6月頃にかけて、だんだんと様々な多くの症状が生じるようになり、その程度も強くなっていきました。

具体的には、強い身体のだるさ、腕のしびれ、右半身のしびれ、関節の痛み、足が上が

らない、目の奥を手でかき回されるような感覚、物がぼやけて見える、味覚がわからない、突然手がブルブルとふるえ出す、起きあがれない、計算ができない、手に力が入らなくて、片手で鉛筆が支えられない、、、などがあり、数えたらきりがありませんでした。

私がこのような状態になって、ようやく両親も私の身体がおかしくなっていることを分かってくれました。

#### 4 学校生活

1回目、2回目のワクチンを打った後も体調が悪くなっていましたが、早退したり、保健室を利用したりして、学校には何とか通っていました。部活動にもなんとか参加しましたが、思うような練習はできませんでした。

ところが、3回目のワクチンを打った後は、学校に行くために起きあがれない日が増え、とにかく強い痺れと身体のだるさ、関節の痛みで何もできなくなりました。当然、欠席や遅刻が増えました。1回目、2回目のワクチンの後は何とか続けられていた弓道部の練習もほとんど参加できなくなりました。平成24年6月、私はやむなく弓道を続けることを諦め、退部しました。弓道部の顧問の先生や担任の先生などからも、さぼっている、わがままと言われていました。

中学3年生の春には、物がぼやけて見えるようになり、学校の視力検査で右目の視力は測定不能と言われました。

吐き気や微熱、目の奥をかきまわされるような頭痛も現れるようになり、ワクチンを打つ前は1ヶ月に1回、正確だった生理も、1ヶ月に2回あたりと、生理不順になりました。

階段を一人であがろうとしても足がうまくあがらず、友達に助けをもらうこともありました。

この頃には、学校にはほとんどお母さんの車で送ってもらっていました。このようにつらさを我慢して、学校に着いてもとても教室で机に座っていることができず、保健室で1日寝て過ごし、早退していました。

結局、中学3年生（平成25年）春以降、学校の授業にはほとんど参加できませんでした。そして、この頃から、右の手のひらが突然自分の意志とは関係なく震えだし、止められなくなる症状が現れました。最初の頃は少し我慢しているとやがて手の震えはおさまりました。

やがて、鉛筆を持って指に力が入らず、文字をこれまでのように、バランス良くきちんとかけなくなっていきました。学校の階段も足があがらずのぼれなくなりました。

#### 5 病院での対応

私の両親は共働きで、あまり心配をかけたくなかったので、3回目のワクチンを打った後、中学2年生の約1年間、学校での身体のしんどさをあまり両親には話していませんでした。

けれども、中学3年生になった後の平成25年6月頃には、もう自分一人では我慢できなくなりました。私はお母さんに、病院に連れて行って欲しいと頼みました。

最初は近くのA医院に行きましたが、私の症状を先生に話ししても、検査の結果は特に異常はなく、私の状態を理解してもらえませんでした。

次に少し離れた公立のB病院を紹介してもらい、その病院では脳神経外科、眼科、婦人科、小児科などにかかり、脳のMRIなどあらゆる検査をしてもらいましたが、やはり検査結果には異常はなく、原因は不明でした。病院では、私の身体のだるさ、手の震え、足があがらないことなどを訴えても、気分を変えたら治るのではないかと終わりました。

身体のだるさや頭痛、吐き気などが毎日続き、両親に手や背中をさすってもらいました。それでもどうにも我慢できなくなると、その都度病院に連れていってもらいましたが、結局、病院では原因がわからないと、治療は何もしてもらえませんでした。

平成25年12月頃、C医療センターを受診し、そこで子宮頸がんワクチンの副作用についての話を聞きました。同じ頃、お父さんも、子宮頸がんワクチンの後で手足がぶるぶると震えたり、歩けなくなっている少女のニュースを見ました。そしてお父さんがインターネットで調べた結果、私のこれまでの症状も子宮頸がんワクチン後の副反応と一致するということがわかりました。

そして、C医療センターで、子宮頸がんワクチン後に痛みなどの症状が出たときに受け入れる医療機関として、D大学附属病院の紹介を受けました。

平成26年1月に私はD大学附属病院を受診しました。

両親も私も、これまでほどの病院に行っても検査に異常がないから、私の方がおかしい、という対応でした。しかし、D大学附属病院は子宮頸がんワクチン後の症状を診てくれるところなので、初めて、きちんと対応してもらえる、話をきいてもらえる、検査して原因をつきとめてもらえる、と大きな期待と希望を持ちました。

平成26年1月終わりから2月にかけて、私はD大学附属病院に検査入院しました。私の担当になった女性医師からは、もうじき高校受験なのに、受験が嫌だから入院したいのか、あなたはわがままですね、親子関係に問題があるからこういう症状が出ています、ヒステリーです、などと言われました。結局、私の症状は自律神経失調症で、心因性の問題ということになりました。D大学附属病院ではてんかんの薬や漢方薬など多くの薬を処方されたのですが、とても飲める量ではありませんでした。

D大学附属病院で唯一良かったのは、診断書に「子宮頸癌予防ワクチン副作用疑い（全身倦怠感、右上下肢痛）」と書いてもらえたことでした。

というのは、この診断書を中学校に提出してから、学校の先生達がようやく私が仮病を使ってさぼっていたわけではなく、本当に身体がつかったことを理解してくれるようになったからです。

そして、以後は私の体調に学校側も配慮してくれるようになり、高校入試に際しても、私の体調に合わせて別室で受験することが出来ました。

## 6 E大学病院での治療

D大学附属病院では、私の症状は自律神経失調症という扱いでしたので、私のだるさも、身体の痛みも全く改善しませんでした。

私はこれまでと同じように身体がつかなくなると、近くのB病院に連れていってもらっていました。

平成26年2月20日頃、私は自宅で身体全体がぶるぶると震えだし、自分では止められなくなり、おばあちゃんが私をB病院に連れて行きました。待合室で診察を待つ間も私は自分を止めることができなくなり、待合室を歩き回ったり、横になったり、震えたり、

とじっとしていることが出来なくなりました。

結局この日は自分の身体を抑えられなくなる状態が2時間くらい続きました。

B病院でも私がなぜこのような状態になるのか分からないため、治療が出来ず、私の発作が治まるまで、ただ様子を観察するだけでした。

しかし、このときE大学病院の先生がこの病院に来ており、私の状態を診て、E大学病院を受診するように勧めてくれました。

平成26年3月末に、私はE大学病院の神経内科を受診しました。そこで、私は初めて、私の症状は子宮頸がんワクチンが原因であると、はっきり医師に認めてもらえました。そして、メチコバールの処方を受けました。

私は平成23年9月に子宮頸がんワクチンを打たれてから、このとき初めて、症状の原因に応じた治療を受けることが出来ました。

E大学病院で処方された薬を飲むうちに私の症状はどんどんと改善されました。

平成25年春以後、平成26年5月頃まで、私は小学校低学年の計算問題も解くことができなくなっており、身体のだるさ、頭痛、右半身の痛みやしびれに一日中ずっと悩まされていました。まだ味覚もおかしくなっていて、何を食べてもほとんど味がわかりませんでした。

しかし、平成26年夏頃からは本当に身体が楽になりました。

身体の上びれや痛みもほぼなくなり、味覚も回復しました。生理不順も治りました。

それまでは、頭の中に霞がかかっているようで、ものも覚えられなかったのが、世界がこんなにはっきり、理解できるのか、と感じられるようになったのです。

## 7 症状のぶり返し

E大学病院の治療後、私の症状は随分よくなり、現在は調子がよければほぼ普通に生活が出来るようになりました。

しかし、子宮頸がんワクチンを打つ前と比べれば、身体が疲れやすく、頻繁に熱を出すようになり、体調も崩しやすくなりました。

平成26年9月頃、突然、右手が以前のように痺れる症状のぶり返しがありました。

平成26年10月のつい先週にも、再び右手がだるくなり、微熱が出ました。実はこの症状は今もまだ治まっていません。

昨今の今頃と比べれば、本当に私の身体は楽になりました。しかし、実際に今でも、症状がこうしてぶり返しているのです、いつまた元のような重い状態になるかと思うと不安です。

そして、将来、自分はちゃんと妊娠できるのか、これが一番心配です。

## 8 あきらめたこと

中学校に入学してから私は弓道を始めました。

私はこの弓道という競技が本当に好きで、入部してから、今回のワクチンで体調を崩すまでは休まずに練習に参加し、一生懸命頑張ってきました。

実際、子宮頸がんワクチンを1回目、2回目に打った後でも、身体はつらかったのですが、どうしても上達したくて弓道の練習を続けました。

平成24年1月に初めての県大会に参加し、私は良い成績をおさめました。

1年生でこのように良い成績をおさめられたのだから、これからもっともっと練習して

頑張りたい、弓道を続けたいと強く思いました。

しかし、平成24年3月末に3回目のワクチンを打った後、私の身体は弓道を続けるどころではなくなり、平成25年の中学3年生の春以降、学校に通学するのめんどろ、やがて学校に通うこともままならなくなりました。

平成25年6月、私は弓道を諦めました。

もし、ワクチンの副作用がなければ、弓道を続けていたはずですが。こんな形で自分の目標を諦めることになったのは、悔しいです。

## 9 さいごに

私は、子宮頸がんワクチンを打った後に出た、私の症状が何だったのかをはっきりさせたい、

「気のせい」「痛みからのショック」など意味の和からに結果で終わらせてほしくない、と強く思っています。

今、私の症状は落ち着いています。

ニュースなどで重度の副反応が出ている子を見ると、本当にこのワクチンを推進した一部の大人達を許すことができません。苦しんでいる人達を救おうとしない、真実を隠そうとする体質のこの国が一番残念です。

一日も早く、苦しんでいる人を、辛く哀しい日々を過ごしている人達を、早く暗いトンネルから抜け出させてあげてください。

私も両親も何かしてもらいたいとか、思っていません。

ただ、真実を世間の人たちに伝えてもらいたい。子宮頸がんワクチン接種後に副反応で苦しんで人生が変わった人が沢山いることを、少しでも多くの人達に分かってもらいたい。

そして、今後接種を完全に中止してもらいたい。ただそれだけを祈ります。